

平成 24 年度

## 病害虫発生予察特殊報 第 1 号

平成 24 年 5 月 8 日  
茨城県病害虫防除所  
TEL : 029-227-2445

### キョウナ萎凋病（仮称）の発生について

病 害 名 : キョウナ萎凋病（仮称）  
病 原 菌 名 : *Fusarium oxysporum* Schlecht.  
発 生 作 物 : キョウナ（ミズナ）

#### 1. 発生確認の経過及び県外での発生状況

- (1) 平成 21 年及び平成 23 年に、県内のキョウナ（ミズナ）圃場における夏秋栽培で、立枯れ症状の株が発生した（写真 1）。被害株の症状から病原菌による病害が疑われたため、農業総合センター園芸研究所で同定した結果、*Fusarium oxysporum* によるキョウナ萎凋病（仮称）であることが確認された。
- (2) *Fusarium oxysporum* は国内に広く分布し、多くの分化型が存在するが、キョウナ（ミズナ）で病原性が確認されたのは初めてである。

#### 2. 病徴

発病した株は外葉から萎凋し、病勢が進行すると株全体が枯死に至る（写真 2）。地際部および根部を切断すると、維管束が褐色～黒褐色を呈する（写真 3）。病徴が激しい株は根全体が黒変する。

#### 3. 病原菌と発生の特徴

病原菌は糸状菌の一種で、土壌伝染性の病害である。連作圃場において、7～9 月の高温期に発生が多くなる。本菌のキャベツ、チンゲンサイ、ダイコン等のアブラナ科野菜への宿主範囲については現在確認中である。

#### 4. 防除対策

- (1) 被害株は伝染源になるので、できるだけ抜き取り、圃場外に持ち出し土中深く埋める等、適切に処分する。
- (2) 発生した場合は、土壌還元消毒を行う。
- (3) 土壌伝染性の病害のため連作を避ける。
- (4) 本病に登録のある薬剤は現在のところない。



写真 1 本病の発生圃場（赤丸：被害株）



写真 2 被害株



写真 3 維管束の褐変～黒褐変